

第 90 回記念 横浜新人演奏会 特集号



第 90 回新人演奏会に寄せて

横浜音楽協会会長 平本勝義



この度、「第 90 回横浜新人演奏会」を開催できますことを喜ばしく思っております。

この新人演奏会は、大正 13 年の初演であります。爾来、出演された多くの新人演奏家が、音楽界で活躍されております。このことは、新人を広く社会に紹介するという初期の目的が達成されたものであると感慨無量であります。またこの演奏会は、歴史の重みとともに伝統と誇りに輝いております。さらに、社会情勢の変化や音楽界の変遷に対応しながら、今日に至るまで脈々と「新人演奏会」を受け継がれた先人に畏敬の念を抱いております。ここにあらためて、歴代の会長さんをはじめ、役員・会員そして出演者の皆様に厚く御礼を申し上げる次第です。

一方、この演奏会にご指導を賜りました、横浜市および関係機関・関係団体・関係企業各位に衷心より深く感謝申し上げます。

さて「新人演奏会」は、当協会設立以来の信条に基づく事業であります。今後ともその音楽的使命を重く受け止め、新人演奏家を生み出す意義と、支援する活動を一層充実・発展させる努力を決意しております。

さらに、横浜市民の音楽文化向上のために、会員一同心を一つにして音楽活動を推進する所存であります。

今後とも「横浜新人演奏会」また、「横浜音楽協会」に対しまして、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



横浜音楽協会のあゆみと新人演奏会

横浜音楽協会の設立

今を遡る94年前、大正13年(1925)に当協会は設立された。この年は、前年に発生した関東大震災の翌年にあたり、東京とともに瓦礫の街と化した横浜は復旧のめども立たぬ間に年を越し、市民は困窮の生活を余儀なくされる暗い社会情勢であった。

そんな中、財界で知名度の高かった「渡辺利二郎氏」(横浜銀行創立者)は、教育界で活躍していた「高野己之助氏」に働きかけた。音楽に造詣の深かった二人は「音楽を通して人々の心に潤いを」とする共通の理念に立ち、機会あるごとにその具現化に努力された。また、学校現場で音楽教育に専念されていた数名の同志に参画を呼び掛け、当時としては画期的ともいえる音楽文化にかかわる事業の推進を基盤に据えた基本構想をまとめた。この主旨は、ささやかではあるが横浜の音楽文化活動を推進する新たな団体の創設に至った。この団体が、『横浜音楽協会』である。

この協会の目的は、横浜の音楽文化振興事業を推進し、その発展に寄与する。

(1) 横浜出身の音楽学校卒業生を紹介する新人演表会を開催する。

(2) 音楽文化普及のための諸事業を、推進し音楽を愛好する市民層の拡大につとめる。

協会の設立発足に伴い、目標に掲げた「新人演奏会」が初めての事業であったが、会員の一人ひとりの強い実行力により極めて精力的に進められたようである。しかし、何事も円滑に事が運んだ訳けでもなく、たえず不確定的要素がちらつく状況であったことが推察される。

新人演奏会第一回目の開催

大正14年(1926)5月、第一回の記念すべき新人演奏会が開催された。会場は、横浜市南区弘明寺の、横浜工業専門学校(現 横浜国大工学部)の講堂で開催した。ここが会場となったのは、当時としては珍しく「ドイツ製のピアノ」が置かれていたことによる。

記録によると当日の出演者は、東京音楽学校を卒業したての「佐藤美子女史」と「鏑木欽作氏」の二人であった。演奏曲目は、『カルメンのアリア』『シューベルトセレナーデ』等で、会場の隅々まで浸透する美声と初々しく新鮮さに富んだ演奏に、満席の聴衆は感動し万雷の拍手が鳴りやまず盛況であつと記録されている。しかし、残念ながら詳細な資料が残されていない事は残念である。

その後、新人演奏会は年々出演者が増加し、その内容も充実し初期の目的を達成するとともに、演奏会として定着してきたと確信している。

戦争による中断

新人演奏会は、初期の目的どおり毎年開催され、多くの演奏家を生み出す原動力となるとともに、横浜市民の音楽文化の向上に貢献してきた。しかし昭和16年(1941)、第二次世界大戦が始まると「コンサート」どころではなく「新人演奏会」を中断せざるをえない社会情勢となった。このため、新人音楽家および多くの音楽愛好家の皆さんは、早い時期に演奏会が再開されることを念願していたようである。

戦後の再開

終戦後の昭和20年、戦災により焦土と化した横浜では、音楽会など到底望めない状況であった。また多くの演奏家は、散り散りになり、生活の立て直しを図りながら、音楽的能力の低下をおそれ、練習場や楽器の確保、演奏の機会を求める演奏家の苦労が想像できる。一方音楽を志す、若者の希望とその実現に向けての努力と苦労を推察すると万感の思いで一杯である。

かたや大衆音楽の分野では、「渡辺はま子」「美空ひばり」といったスターの誕生が横浜の人々を勇気づけることになった。そして、横浜の復興に音楽をもって果たした役割は偉大であったと歴史に刻まれている。

さて、中断を余儀なくされていた「新人演奏会」は、音楽愛好家および新人演奏家の念願により昭和22年5月復活・再開することができた。会場は、当時「もみじ坂」にあった『婦人会館』であった。しかしながら、当時の資料が存在せず、開催の記録はあっても「出演者・演奏曲目等」不明なことは誠に残念である。

その後毎年、会場の確保に会員一同尽力され、「新人演奏会」の発展と充実、また、演奏会の定着を祈念されていたことが推察される。

共催機関・後援・協賛

昭和34年(1959)には、横浜市教育局委員会が主催者・共催者となり、当協会にご支援ご指導を賜わることになった。このように公共機関によるバックアップは、「新人演奏会」が社会的にも認識され、その定着が保証される兆しとなった。

平成4年度(1992)より、横浜市教育局委員会から委嘱された、横浜市民局(現 文化観光局)に共催者としてご支援を頂く事になり、現在に至っている。

なお、後援団体としては、NHK横浜放送局、t v k テレビ神奈川、神奈川新聞社、ラジオ日本、横浜市文化振興財団、横浜ユース、はまぎん産業文化振興財団等強力な後援団体に支えられている

協賛団体としては、ヤマハ楽器横浜店、ハタ楽器店、河合楽器横浜支店、ハマ楽器店、寺中ピアノ店、シムラ楽器店、日本屋楽器店、旭屋がご賛同頂いた。

演奏会場

演奏会場に苦労した「新人演奏会」であったが、昭和34年第10回大会より神奈川県ならびに横浜市のご厚意により、「神奈川県立音楽堂」の使用が承認された。このことにより、例年苦しんだ会場探しから開放されることになり、会員の喜びと安堵は文筆に尽くしがたい事実である。その後、「県立音楽堂」は41年間開催会場として使用させて頂いた。

平成12年(2000)に、みなとみらいホールの完成に併せて、横浜市民に馴染み深い会場に、演



奏の場を移すことになったことにより、「新人演奏会」の存在感・知名度が一層確立され、ますますの発展充実を期することになったことは、協会にとって誠に喜ばしい限りである。

出演者の選考

出演者の選考にあたっては、各音楽学校に出演希望者の推薦を依頼する方法が長期に亘ってとられていた。また、「成績証明書」「推薦書」の交付を依頼していたようである。協会では、この「成績証明書」「推薦書」を吟味し、出演者を決定していたようであるが、推測の域を出ない。

昭和30年代後半から40年代にかけては、出演希望者は『録音テープ』を提出し、審査を受ける「テープ審査」が実施された。この手法は、書類選考・審査と比較して、より音楽的でありかなり長い期間継続されたようである。

昭和50年代以降、音楽大学卒業生の増加・応募資格の改善等により審査方法および出演者の決定に改善が求められた。このため、審査の近代化をめざし平成2年(第61回)より『オーディション』を開催することにより、厳正かつ公平で権威ある出演者の決定が最善の策として定着した。

オーディションと書査員

平成2年から平成11年まで、オーディションの会場は旧横浜市教育文化センターホールで開催され、多数の応募者の審査が行われた。審査は、応募者の数に応じて、2日間にわたることもあった。このため、理事全員で円滑な審査に取り組むため、さらなる高度な審査の在り方が要求された。

平成12年より、オーディションの会場を「みなとみらいホール・小ホール」に変更した。このため横浜を代表するホールのステージに、一度はステージに立つてみたい念願を抱く新人演奏家が参集した。このホールは、すべての面で最高のホールであった。特に、「音響・雰囲気」など申し分のない要素が存在し、満足感にあふれる演奏と審査が行われた。ただし、土曜日・日曜日の使用に制限があり、かなり不便な面があった。

平成24年から、審査会場をハタ楽器さんのご厚意により「ハタ楽器ホール」に変更した。変更の理由は、応募者が参加しやすい「日曜日」が使用できることと、使用料を免除にして頂いたことによる。

審査員は、ピアノ部門 『故 山岡優子女史 フェリス女子大学教授』『故 高木幸三氏 横浜国立大学名誉教授』『久保 浩氏 フェリス女学院大学音楽学部長』、器楽部門 『斉藤鶴吉氏・元N響団員』『水野佐智香女史 洗足学園音楽大学音楽学部教授』『鈴木弘一氏 元N響団員』、声楽部門 『中村浩子女史 東京芸術大学教授』『中村義春氏 東京学芸大学名誉教授』 (委嘱当時・敬称略)



(審査風景)

実施要綱・応募資格等の改定

平成24年、「新人演奏会実施要綱および応募資格」の改定を諮った。その一部に、応募資格は「横浜市出身」と規定されていた。このため、広く全国的規模での応募に支障があったが、横浜市出身の「わく」を撤廃することにより全国的規模での応募が可能になった。

同時に、「新人演奏会」の名称を『横浜新人演奏会』に改称し、一層の充実発展を志向した。

出演者に対する表彰

従来より、出演者の中から技能や音楽性に優れた新人を表彰したい意向があった。しかし、なかなか具体化には至らなかった。平成22年、横浜市に懇願し『横浜市長賞』の授与が実現した。このことにより、出演者は受賞への願望と将来への自信と激励を合わせ持つことになり、羨望的となった。



平成24年、神奈川新聞社にも「神奈川新聞社賞」をお願いし、ご理解とご支援をいただいた。

平成25年には『音楽協会賞』を2～3名の枠で高い評価を得た新人の演奏に報いる「賞」として設定した。

これらの賞は、いずれも「オーディション」当日の演奏の評価であり、演奏会本番の演奏に対する『賞』とは異なる。今後、演奏会当日の演奏を評価した表彰を模索している。

「横浜市長賞」受賞者

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第81回 永井 祐子 (ピアノ) | 第82回 藤田 彩歌 (ソプラノ) |
| 第83回 鈴木 朝子 (ヴァイオリン) | 第84回 西 悠紀子 (ヴィオラ) |
| 第85回 高根澤 輝 (ピアノ) | 第86回 小野 啓太 (ピアノ) |
| 第87回 吉田安梨沙 (メゾソプラノ) | 第88回 大貫 瑞季 (ピアノ) |
| 第89回 山西 由莉 (オーボエ) | |

「神奈川新聞社賞」受賞者

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 第83回 宮本小菜実 (ピアノ) | 第84回 田中沙友里 (メゾソプラノ) |
| 第85回 林 朝美 (ピアノ) | 第86回 新宮 雅美 (ソプラノ) |
| 第87回 石原 千瑛 (バストロンボーン) | 第88回 杉田 彩織 (ソプラノ) |
| 第89回 橋本 愛海 (ピアノ) | |

「協会賞」受賞者

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 第84回 江夏真理奈 (ピアノ) | 第85回 三田村奈波 (トロンボーン) |
| 第86回 渡辺 夕起 (オーボエ)、小澤美咲紀 (ソプラノ) | |

第87回 大江 沙耶（ヴァイオリン）、木村 佳（サクソフォン）、高畑 和世（ソプラノ）

第88回 堀田 和磨（サクソフォン）、堀内 祐実（トランペット）

第89回 上草 梨沙（ピアノ）、吉田 静香（ソプラノ）

受賞者のコメント



第83回『横浜市長賞』受賞者 鈴木 朝子（すずき あさこ）

この度は横浜新人演奏会第90回開催にあたり、心よりお喜び申し上げます。

私が第83回横浜新人演奏会に出演させて頂いてから早くも7年がたちましたが、演奏会でご紹介頂き、またそこで光栄にも『横浜市長賞』を頂けたことは、私にとって演奏活動を続けるにあたり温かく基本に戻る芯のような、大切な経験として残っています。

卒業当時、どうしても音楽を続けて広げていきたい、もっと学びたい思いで半年後にドイツに留学しました。現在は演奏活動を中心に、バイサイドコンサートにも出演させて頂くことが出来てとても嬉しく思います。

歴史のある素晴らしい響きのある会場だけでなく、曲へのコメントも一緒に紹介頂ける形式のこの演奏会はいつも演奏のアプローチと共に新たな発見を与えて頂く大事な経験になります。また他の共演者と知り合いお話出来ることは、後にも続く貴重な交友となっています。

いつも演奏家のことを考え、温かく声をかけて下さる横浜音楽協会の皆様に心より感謝申し上げますと共に、今後も新人演奏家が演奏会で、横浜の文化と共に素晴らしい経験をされる事を願っております。

出演者のコメント



第48回出演

保坂 裕子（ほさか ゆうこ）

第90回新人演奏会開催おめでとうございます。90年以上にわたり、この演奏会が親しまれてきたのは、出演者、企画運営スタッフ、聴いていただいた皆様すべての力があつたからだと思います。

私は第48回新人演奏会（昭和52年5月10日 県立音楽堂で開催）に、シューマン作曲「交響的練習曲」のピアノ独奏で参加しました。その年は、ピアノや声楽・フルート・サクソフォン・チェロ・ファゴット計19名の演奏がありました。学生時代の同窓生、その年から始めた教員仲間の姿もありました。横浜音楽協会の先輩のみなさまに支えられ、大きなステージでの緊張感の中にも安心して本番に臨むことが出来ました。

40年以上の時が経ち、みなそれぞれの道を歩んだと思いますが、社会人としてのスタートに新人演奏会に出演させていただいたことを嬉しく思い感謝しています。

新人演奏会と横浜音楽協会のご発展を祈念いたします。



第53回出演

河村 潤子（かわむら じゅんこ）

横浜新人演奏会90回開催おめでとうございます。このように長い歴史を持つ音楽会は、なかなか他では見られないのではないのでしょうか。私も大学卒業時に、この演奏会に出演させていただき、また、本協会の演奏会にも出演させていただきました。私が携わらせていただいたのはその長い歴史のほんの一瞬ですが、とても光栄に思います。

この音楽会が始まった頃とは違い、今は、いろいろな音楽との関わり方があります。CD・DVDはじめ音楽配信サービスなどでいつでも聴きたいと思った時に楽しむ事が出来、また、会場での生演奏を楽しむことも出来ます。本協会が発信している数々の演奏会は、演奏者と聴衆を直接つなぎ、演奏者の想いや汗を肌で感じていただける貴重な機会だと思います。聴衆の拍子によってさらにさらによりよいパフォーマンスを導くという相乗効果を、きっと会場に足をお運びいただいたお客様に感じ取っていただけるに違いありません。先人たちの努力に感謝しつつ、お客様が音楽会の後に幸せな気持ちを持ち帰られるよう、精進して参りたいと思います。



第57回出演

村上 雅基（むらかみ まさき）

今回、第90回という節目の「横浜新人演奏会」に出演のお声をかけていただき、とても光栄に思いました。私は、今から33年前、第57回の演奏会に出演させていただきました。曲は「ロンベルク作曲、フルート協奏曲 ロ短調 作品30 第1楽章」だったと思います。この曲は、卒業試験の曲として選曲して、運よく大学の卒業演奏会でも演奏した、今ではとても懐かしい曲です。当時の新人演奏会に出演した4月には、既に中学校教員として勤務していたこともあり、ホールで演奏できることに喜びを感じ、自分なりに精一杯演奏した記憶があります。今回演奏する曲「ムチンスキー作曲、フルートソナタ 作品14」は大学4年の時に時間をかけて練習し、レッスンを受け、5月のフルートデビューリサイタルで演奏した曲でした。演奏させていただき、大学卒業当時の音楽への情熱を思い出しつつ、これからも演奏活動を継続していく所存です。

横浜音楽協会の現状

協会の法人化

平成11年当協会は、法人格を取得し「**特定非営利活動法人 横浜音楽協会**」と改称した。このことにより、各事業・活動が社会的にも信頼を得ることになった。さらに、公共性を合わせ持つ各事業を円滑に推進する事が可能となり、現在に至っている。

協会の受賞歴

当協会は、永年にわたる音楽事業の推進、音楽教育・音楽文化への貢献により多くの『賞』を受賞した。受賞歴はつぎのとおりである。

- (1) 平成7年、毎日新聞・教育音楽振興財団より『音楽振興賞』受賞。
- (2) 平成8年 横浜市より『横浜文化賞』受賞
- (3) 平成10年・13年 『平井教育音楽賞』受賞

協会の主な事業

当協会の主たる事業はつぎのとおりである。

- (1) ローズコンサート

横浜市内の「幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒の演奏」また市内出身の新進音楽家の紹介など、幅広い演奏会。毎年、6月頃開催される。

- (2) ベイサイドコンサート

音楽教育に携わっている「音楽教師」また「新進音楽家」さらに「一般市民」に演奏の機会を提供し、市民にその活躍ぶりを紹介するコンサート。毎年、2月頃開催される。

- (3) 横浜新人演奏会

本協会創設以来の事業。横浜出身を中心に、国内の新人音楽家をオーディションにより選考し、合格者が演奏会に出演できる。この演奏会を通して新人演奏家を広く社会に紹介するとともに、新人演奏家の活動を支援する。今年、90回の記念すべき演奏会となった。

- (4) サロンコンサート

「横浜市クラシック音楽推進委員会」が主催し、横浜市および毎日新聞が共催する『サロンコンサート』の運営。「毎日学生音楽コンクール」の人賞者のデビューと支援を担うコンサート。



第88回横浜新人演奏会 第1部 2017年4月17日(木) 於:横浜みなとみらい小ホール



第88回横浜新人演奏会 第2部 2017年4月17日(木) 於:横浜みなとみらい小ホール

特別号編集委員	肥後 嘉昭 (前会長)
	鈴木 達三 (副会長)
	小島 光子 (副会長)
	戸塚 重雄 (事務室長)